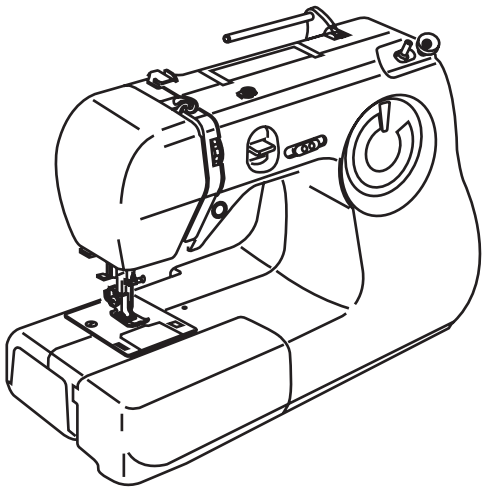
ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いいただく人や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY.

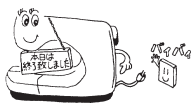
危害・損害の程度を表わす表示

⚠ **警告** この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠ **注意** この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

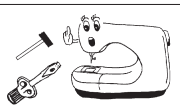
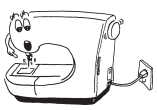
本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
🚫	⃠ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
❗	● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

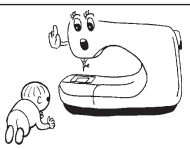
⚠ 警告 感電・火災の原因になります。

必ず実行	一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。
必ず電源プラグを抜く	以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 
必ず実行	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
必ず実行	ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。（ミシンの使用温度は5℃～35℃です。）
必ず実行	スプレー製品などガス類を使用した引火しやすいところでは使用しないでください。

⚠ 注意 感電・火災・けがの原因になります。

分解禁止	お客様自身での分解はしないでください。 
接触禁止	ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。 
禁　止	ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
禁　止	フットコントローラーの上に物をのせないでください。
禁　止	曲がった針や、先のつぶれた針はご使用にならないでください。 

⚠ 注意 感電・火災・けがの原因になります。

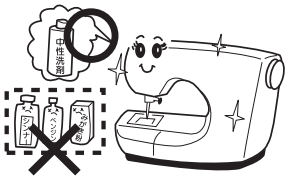
禁　止	ミシンの通風口はふさがないでください。 また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください
注　意	お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。 
必ず実行	針および押さえは、確実に固定してください。 また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
必ず実行	以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
必ず実行	電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
必ず電源プラグを抜く	以下のことをするときには、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのお手入れを行うとき ・針、針板を交換するとき
必ず電源プラグを抜く	ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水にぬれたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

各部のなまえ 2
標準付属品 2
電源のつなぎ方.....3
スタート・ストップボタン 3
速さの調節 4
返しぬいレバー.....4
補助テーブルの外し方・付け方 4
フリーアームの使い方.....4
押さえの外し方・付け方.....5
押さえホルダーの外し方・付け方.....5
押さえ上げのあげ方・さげ方 5
下糸の準備 6-7
上糸の準備 8-9
模様の選び方 10
糸調子の合わせ方.....10
直線ぬい.....11
針板ガイドラインの利用.....12
直線三重ぬい 12
かがりぬい.....13
シェルステッチ.....13
普通地まつり 14
伸縮地まつり 15
伸縮地かがり 15
ジグザグぬい 16
ボタンホール 17
芯入りボタンホール.....17
ミシンのお手入れ.....18
針の取りかえ方.....19
布に適した糸や針を選ぶ目安 19
ミシンの調子が悪いときの直し方.....20

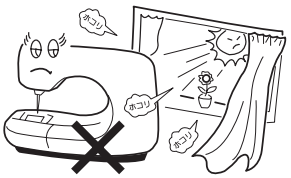
おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

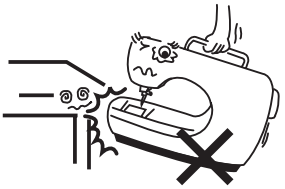


① ぬう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。
② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

◇いつまでもご愛用いただくために



① 長時間日光に当てないでください。
② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

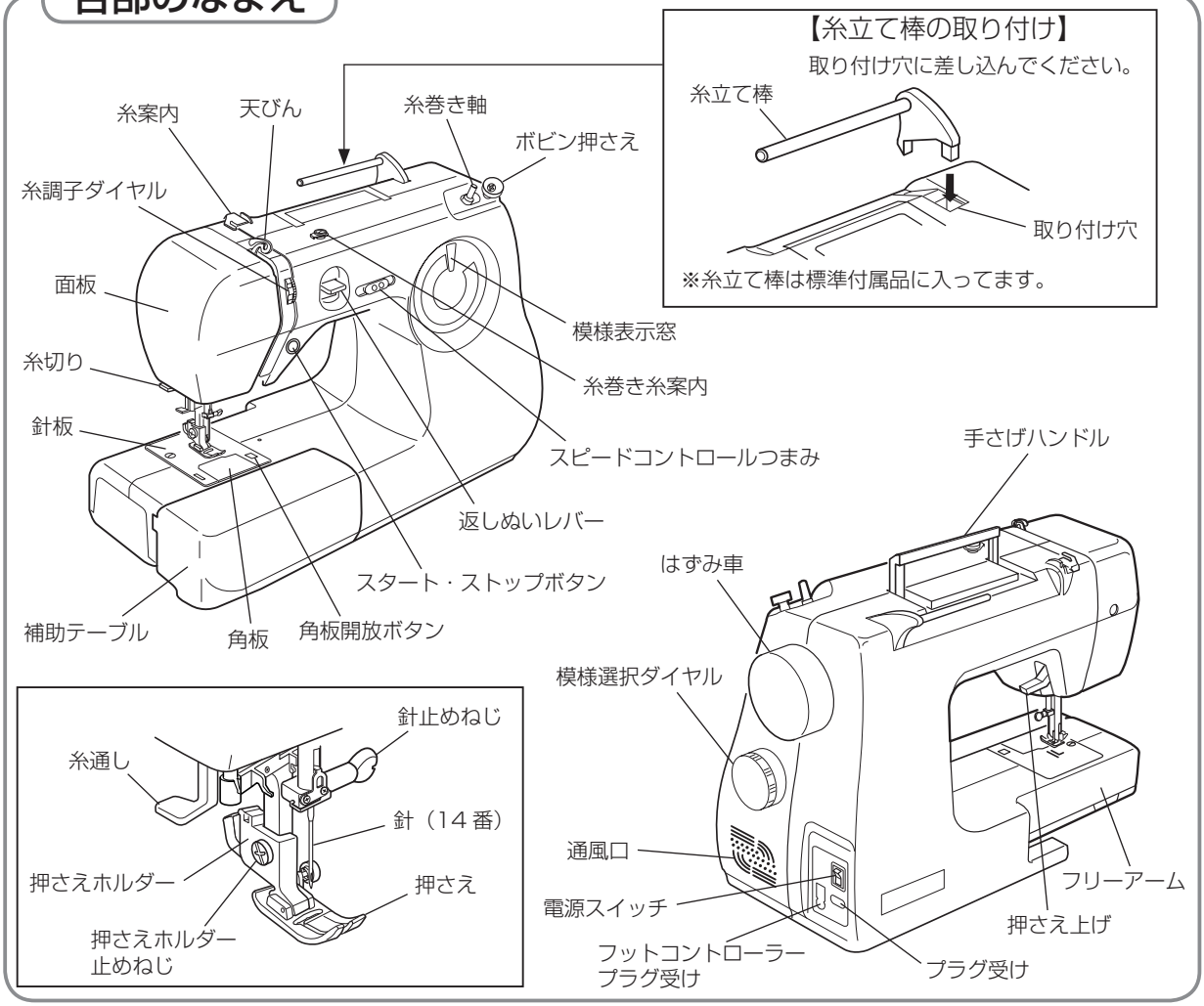


③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンささえてください。

◇修理・調整についてのご案内

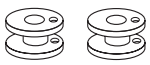
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（20 ページ）により点検・調整を行ってください。

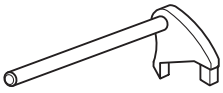
各部のなまえ

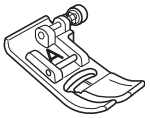


標準付属品

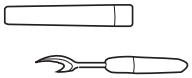
※補助テーブル付属品収納場所に入っています。
4 ページをごらんください。

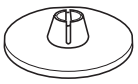

ボビン

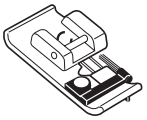

糸立て棒

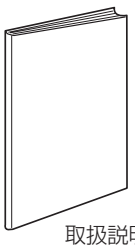

A：基本押さえ
（基本押さえは、ミシン本体に付いています。）

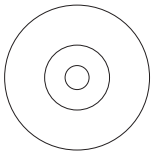

電源コード


シームリッパー


糸こま押さえ

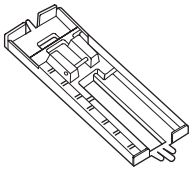

C：たち目かがり押さえ


取扱説明書


説明 DVD


針（HAx1 14）

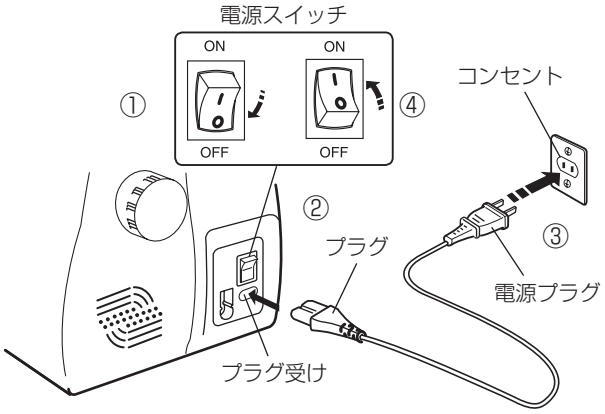

ドライバー


J：ボタンホール押さえ

電源のつなぎ方

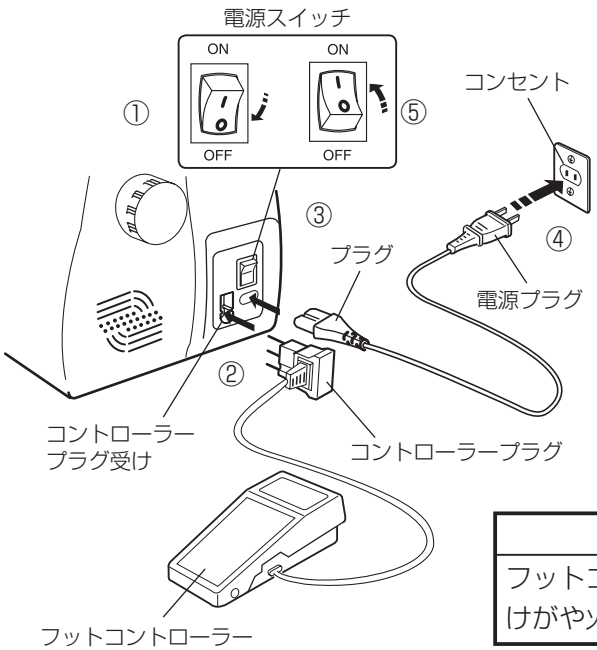
⚠警告

・電源は一般家庭用交流電源 100 V でご使用ください。
・ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、火災の原因となります。
・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより、絶縁不良となり火災の原因となります。



【スタート・ストップボタンを使用するとき】

① 電源スイッチを「OFF」にします。
② プラグをプラグ受けに差し込みます。
③ 電源プラグをコンセントに差し込みます。
④ 電源スイッチを「ON」にします。



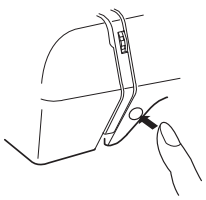
【フットコントローラーを使用するとき】
（フットコントローラーは、モデルにより別売りになります。）

① 電源スイッチを「OFF」にします。
② コントローラープラグをコントローラープラグ受けに差し込みます。
③ プラグをプラグ受けに差し込みます。
④ 電源プラグをコンセントに差し込みます。
⑤ 電源スイッチを「ON」にします。
※ フットコントローラーを接続すると、スタート・ストップボタンは使用できません。

⚠注意

フットコントローラーの上には物を置かないでください。
けがや火災の原因となります。

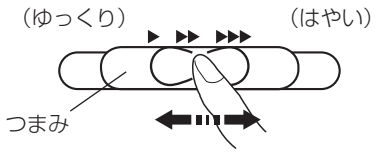
スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ゆっくり動き始めてからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬい始めます。
もう一度ボタンを押すと、針は上位置で停止します。
※ スタートおよびストップのときボタンを押し続けている間（指をはなすまで）は、低速で動きます。

速さの調節

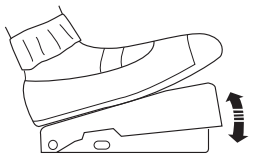
【スピードコントロールつまみ】



ぬう速さは自由にセットできますので、スピードコントロールつまみを、お好みの速さにセットしてください。

※ 最高速度は、模様のぬい目のあらさおよび模様の種類によって変化します。

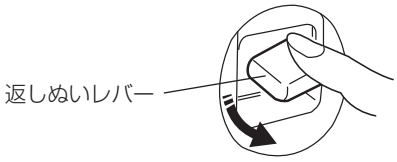
【フットコントローラー】（フットコントローラーは、モデルにより別売りになります。）



フットコントローラーは、深くふみ込む程速くなります。

※ フットコントローラーをふみ込んでもミシンが動かない場合は、もう一度電源を入れなおして、フットコントローラーをゆっくりふみ込んでください。

返しぬいレバー



※ 返しぬいレバーを下に押したとき、返しぬいレバーが斜めになりますが、ミシンの特性によるものであり故障ではありません。あらかじめご了承ください。

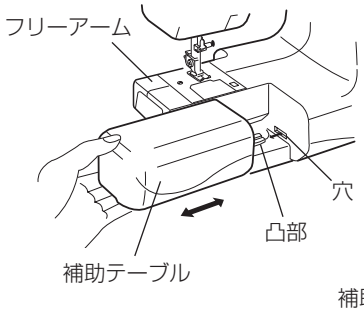
【停止中の返しぬい】

返しぬいレバーを押すと、ゆっくり返しぬいを始めます。指をはなすと止まります。

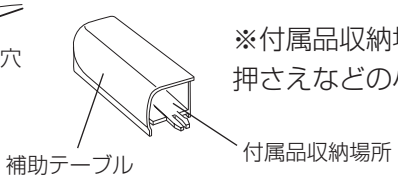
【運転中の返しぬい】

ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだはミシンは返しぬいをし、手をはなすと前進ぬいにもどります。

補助テーブルの外し方・付け方

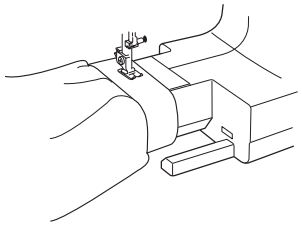


補助テーブルの下側に手をかけて、横に引いて外します。
補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、補助テーブル凸部を穴に入れて取り付けます。



※付属品収納場所
押さえなどの小物は、補助テーブルに収納できます。

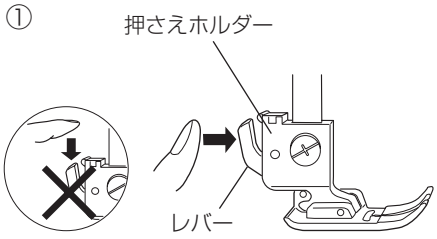
フリーアームの使い方



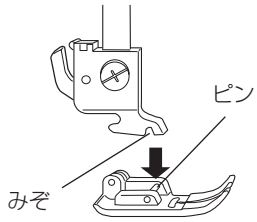
補助テーブルを外すと、フリーアームになります。
そで口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

押さえの外し方・付け方

①



②



⚠注意

押さえの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

はずみ車を手で手前にまわし、針をいちばん上にあげます。

① 押さえ上げをあげ、押さえホルダーのレバーを図のようにうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

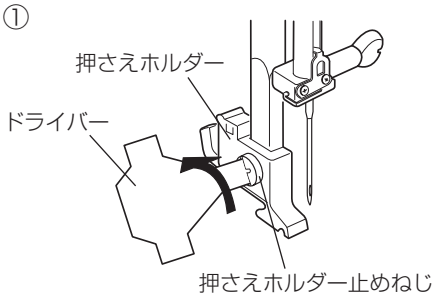
※ レバーを上から押すと故障の原因となります。

※ 押さえのあげ方は、下記【押さえのあげ方・さげ方】をごらんください。

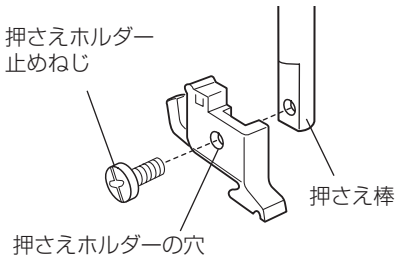
② 押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにさげます。

押さえホルダーの外し方・付け方

①



②



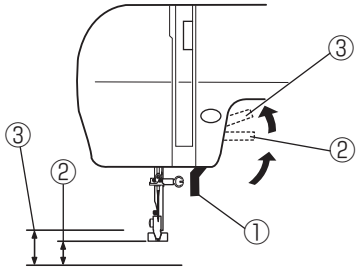
⚠注意

押さえホルダーを外すときや、付けるときには、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

① 押さえホルダー止めねじをドライバーで左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

② 押さえホルダー止めねじを押さえホルダーの穴に入れ、押さえ棒に押さえホルダー止めねじをドライバーで右にまわし、取り付けます。

押さえ上げのあげ方・さげ方



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。
普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚い布を入れるときに使用します。

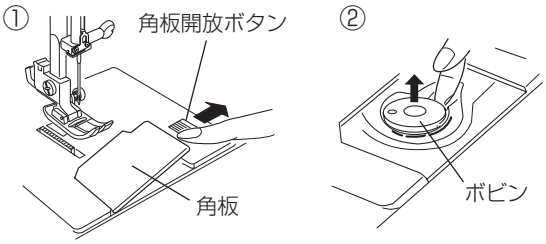
① 押さえ上げをさげた位置
..... ぬいのときは、さげておきます。

② 押さえ上げを普通にあげた位置
..... 布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。

③ 押さえ上げを普通にあげた位置よりさらにあげた位置
..... 厚い布などが入れやすくなります。

下糸の準備

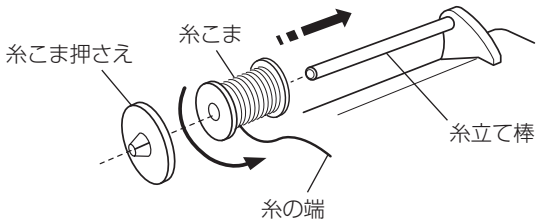
【ボビンの取り出し】



① 角板開放ボタンを右にずらして角板を外します。

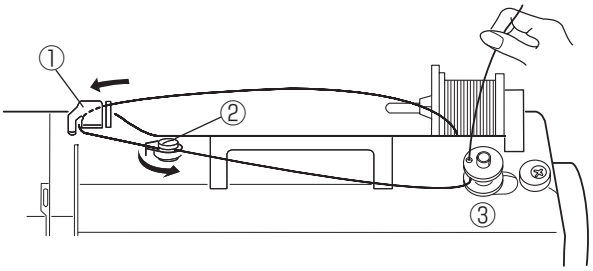
② ボビンを取り出します。

【糸こまの取り付け】

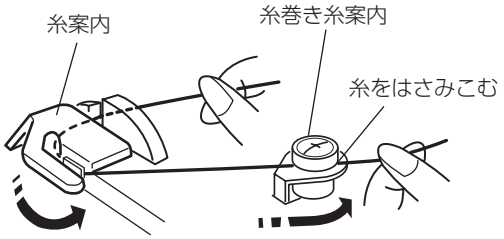


糸の端が下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

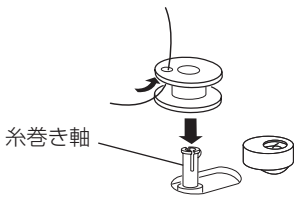
【ボビンに下糸を巻く】



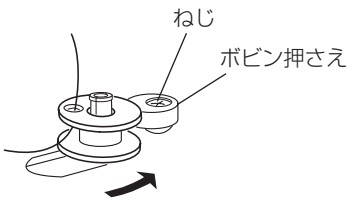
① ②



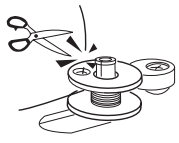
③



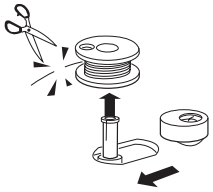
④



⑤

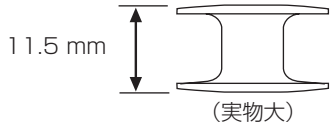


⑥



お願い

ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。
（お買い上げの販売店へご相談ください。）



ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にセットしてください。

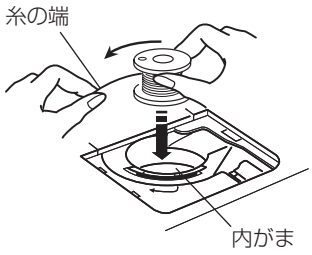
① 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内に向こう側からかけ、手前に出します。
② 糸巻き糸案内に糸をしっかりはさみこむように糸をかけます。
③ ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。
④ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。
⑤ 糸の端をつまんだままミシンをスタートさせ、ボビンに糸を 3 秒間ほど巻きつけたらミシンを止めます。
穴のすぐ近くでつまんでいる糸を切ります。
⑥ 再びミシンをスタートし、巻き終わったらミシンを止めます。
糸巻き軸をもとにもどし、ボビンを外して糸を切ります。

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。
※ ボビン押さえのねじは、ゆるめないでください。

【ボビンの内がまセット】

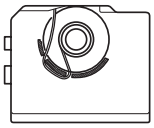
⚠注意
ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

①

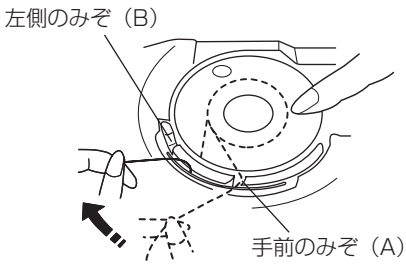


① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※ 角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。

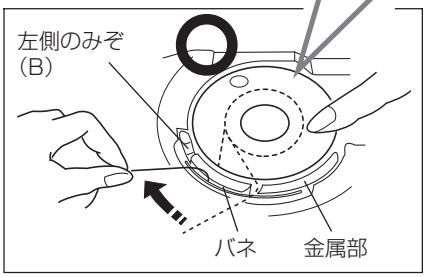


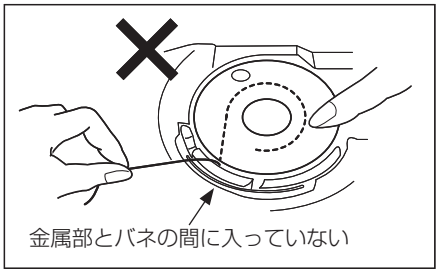
②



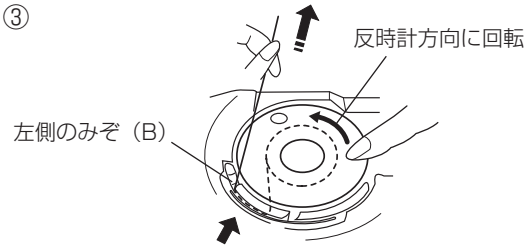
② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。金属部とバネの間に糸を通しながら左へ移動させ、左側のみぞ（B）のところに出します。

※糸をかけるときはボビンが回転しないように指で押さえてください。





③



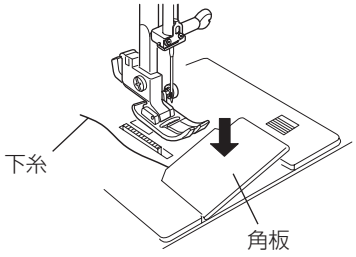
※金属部とバネの間に糸が入っていること

③ 糸を左側のみぞ（B）にかけるように、向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえてください。

※ 向きをまちがえるとぬい不良の原因となります。

④



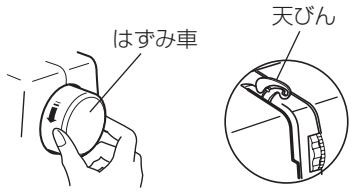
④ 下糸は、10 cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて、付けます。

上糸の準備

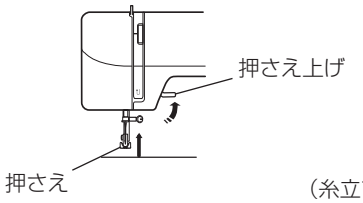
【上糸のかけ方】

⚠注意
上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

①



②



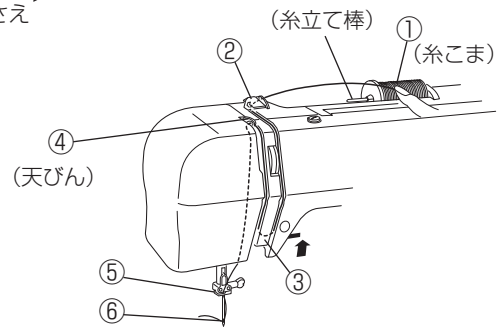
（手順 1）※重要※

① はずみ車を手前にまわして、天びんをいちばん上に出します。

② 押さえ上げをあげ、押さえをあげます。

※ 押さえが上がった状態で上糸をかけないと、糸がらみの原因となります。

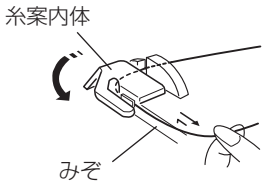
①



（手順 2）

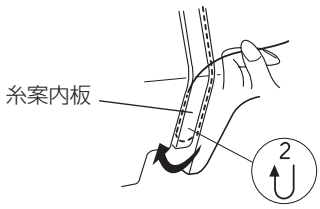
① 糸の端が下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

②



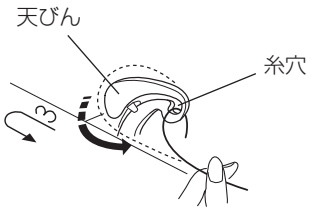
② 糸こま側の糸を軽く押さえ、糸案内体の下に巻き付けるようにかけ、みぞにそって手前に引き出します。

③



③ 糸案内板にそっておろし、下をまわして左上に引きあげます。

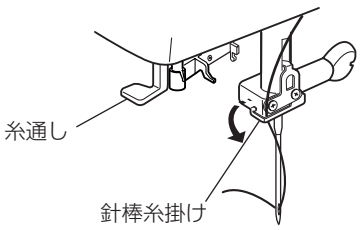
④



④ 糸こま側の糸を押さえ、天びんの右からうしろをまわして左に出し、糸穴に入れます。手前に引き出してまっすぐ下におろします。

※ 糸を糸穴にしっかり入れてください。

⑤ ⑥



⑤ 針棒糸掛けに左からかけます。

⑥ 針穴へ手前側からうしろ側へ糸を通します。

※ 糸通しの使い方は、９ページをごらんください。

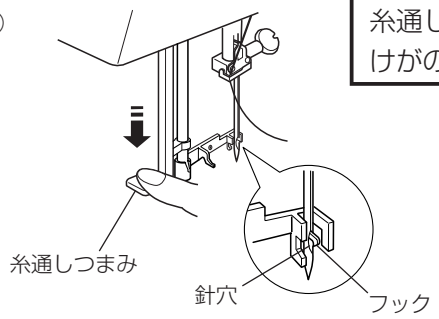
【糸通しの使い方】

⚠注意

糸通しを使用するときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

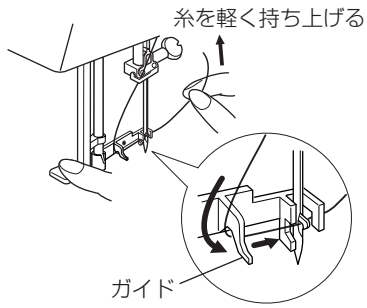
※ 針は家庭用ミシン針（HAx1）の 11 ～ 16 番、およびジャノメブルー針（別売）が使えます。糸は 50 ～ 90 番が使えます。

※ 糸通しは、指で押さえながら使用するタイプです。

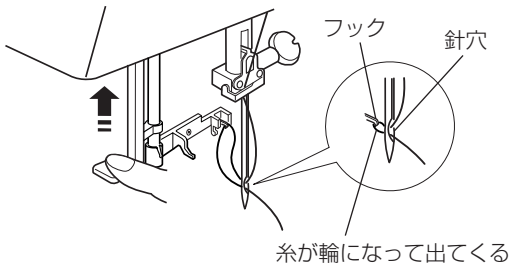
① 

① はずみ車を手前にまわし針を一番上にあげて、糸通しつまみを一番下までさげ、フックを針穴に入れた状態で保持します。

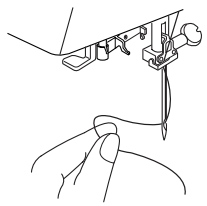
※ フックが針穴から出ているか必ず確認してください。

② 

② 糸を左側からガイドとフックにかけます。右手に持っている糸は、ガイドとフックの間の糸がたるまないように、軽く持ち上げてください。

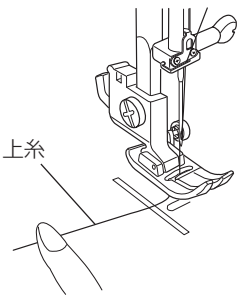
③ 

③ 糸通しつまみを静かに戻すと、フックにかけた糸が、針穴の後ろから輪になって出てきます。糸が出てきたら、右手に持っていた糸をはなしてください。糸通しつまみを保持した指の力を抜くと糸通しがあがり、糸が引きあげられます。

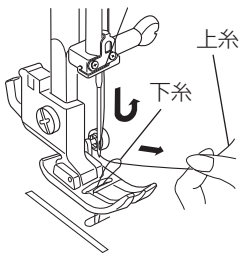
④ 

④ 糸通しをもどしたら、糸の輪を糸通しから外し、針穴から糸の端を引き出します。

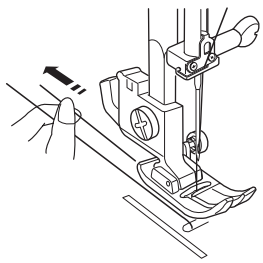
【下糸の引き上げ方】

① 

① 押さえをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

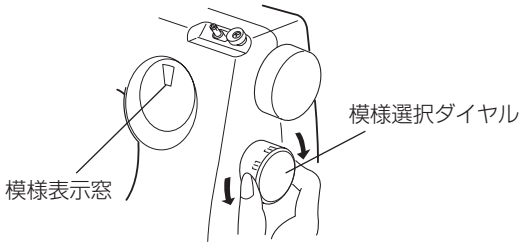
② 

② はずみ車を手で手前に 1 回転させ、上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

③ 

③ 上糸と下糸を押さえの下にして、後ろへそろえて約 10 cm くらい引き出します。

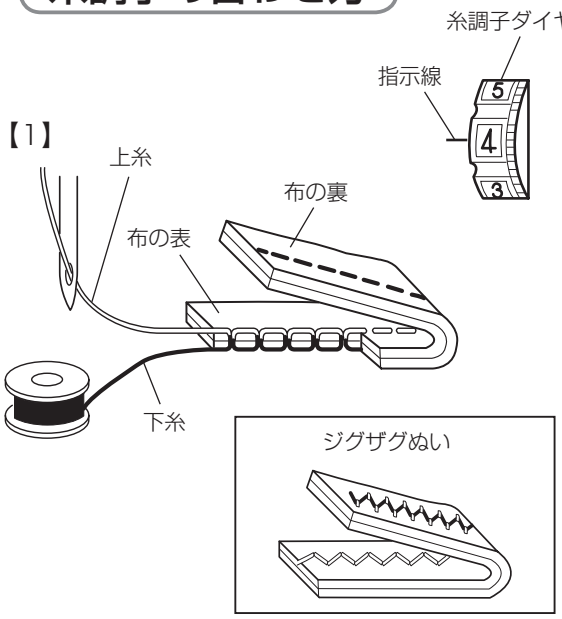
模様の選び方



手ではずみ車を手前にまわし、針をあげます。模様選択ダイヤルをまわし、選びたい模様を模様表示窓に表示させます。

※ 針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因となります。

糸調子の合わせ方

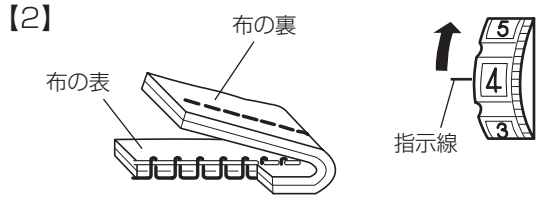


糸調子の目安は、糸調子ダイヤル「4」を指示線に合わせてぬいます。

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして、上糸と下糸のまじわる位置を調節します。

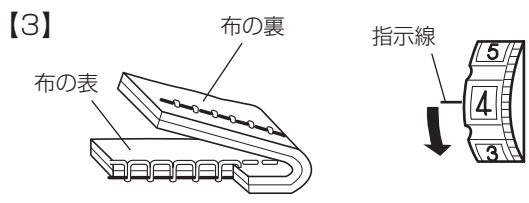
【1】バランスのとれた糸調子
直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。



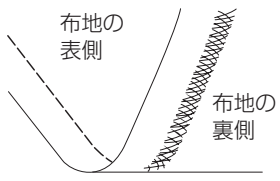
【2】上糸が強すぎるとき
下糸が布の表に出ます。

糸調子ダイヤルをまわし、小さな数字を指示線に合わせます。



【3】上糸が弱すぎるとき
上糸が布の裏に出ます。

糸調子ダイヤルをまわし、大きな数字を指示線に合わせます。

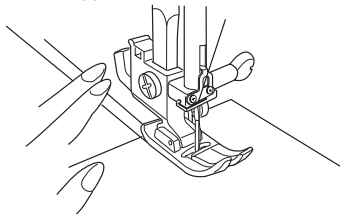


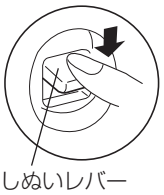
《布地の裏側がタオル地のようになるのは》
左図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子が弱いか、上糸のかけ方がまちがっています。8 ページをごらんの上、正しくかけ直してください。また、上糸調子の合わせ方は上図を参考にしてください。

直線ぬい

セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	2～6 

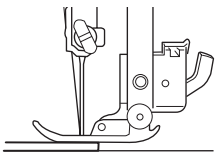
★ぬい始め

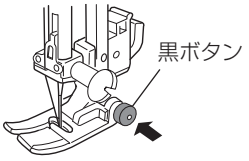




上糸と下糸を押さえの下を通し、向こう側にそろえて引出し、押さえ上げをさげてぬい始めます。
※ ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

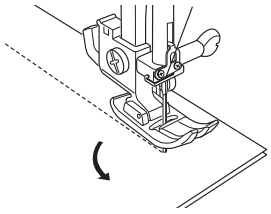
★厚手の布端のぬい始め





ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。
黒ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。
黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。
押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

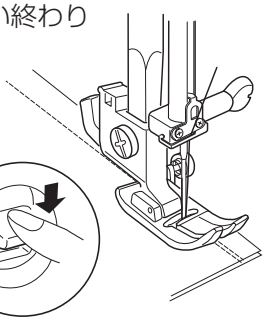
★ぬい方向の変更



ミシンを止め、はずみ車を手前にまわして針を布に刺し、押さえ上げをあげます。針を刺したまま、布をまわしてぬい方向をかえます。

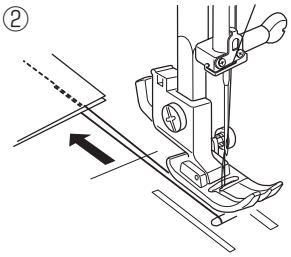
★ぬい終わり

①



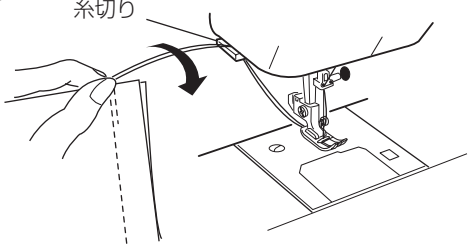
① 返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

②



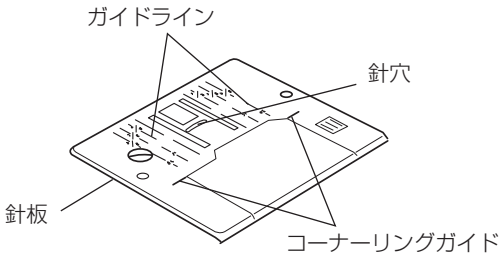
② ミシンを止め、押さえ上げをあげて、布を向こう側に引き出します。

③



③ 布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

針板ガイドラインの利用

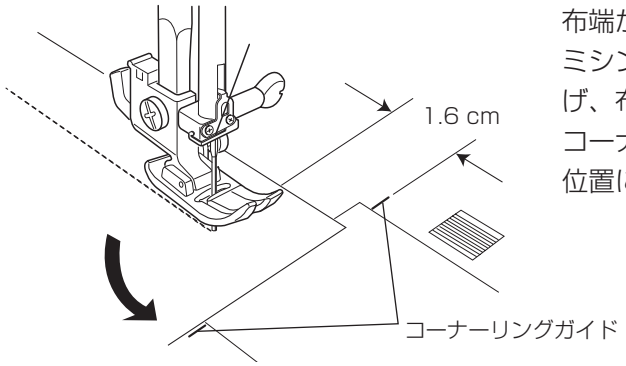


布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、ぬい目の幅がそろいます。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく（cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

※ 数字は針穴中央からガイドラインまでの距離です。

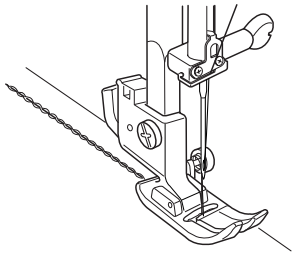
★コーナーリングガイドの使い方



布端がコーナーリングガイドのところにきたらミシンを止め、針を布にさしたまま押さえをあげ、布をまわし方向をかえます。
コーナーリングガイドは針位置から 1.6 cm の位置にあります。

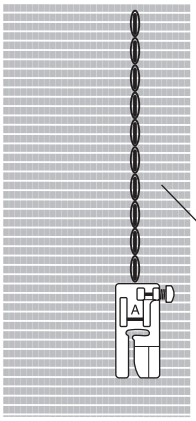
直線三重ぬい

セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	3～6 



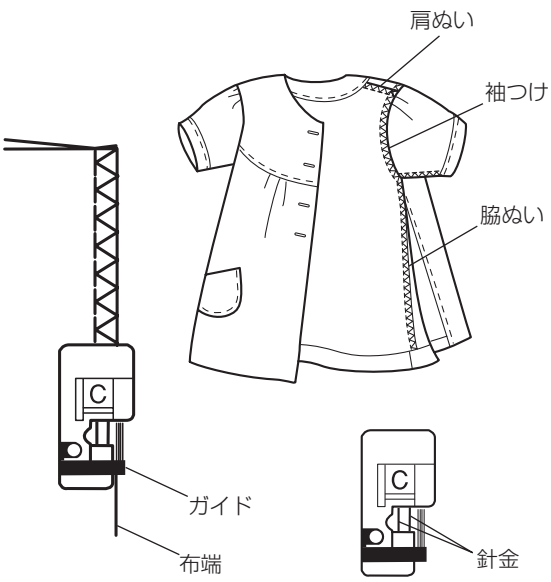
丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに便利です。

※ ぬい目が前後しますので、曲がらないように注意してください。



かがりぬい

セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 C: たち目かがり押さえ	3～6 



布端のほつれ止めとして広く利用します。
かがりぬいと地ぬいが同時にできるので、ぬいしろを割らないもののぬい合わせに適しています。

布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。

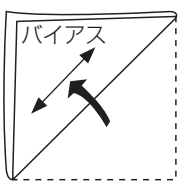
⚠注意

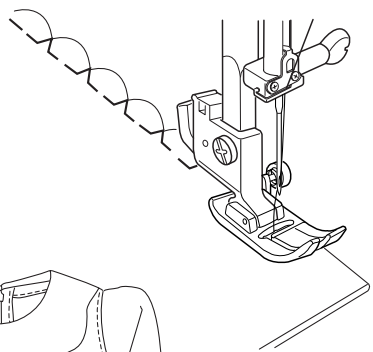
押さえの針金に針があたらないことを確認してください。けがの原因となります。

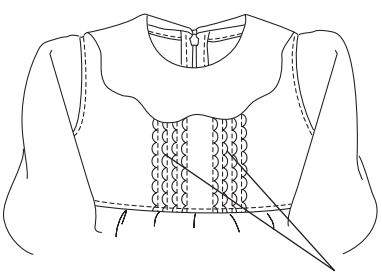
シェルステッチ

セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	6～8 

① ②







① 布をバイアスに二つ折りにします。

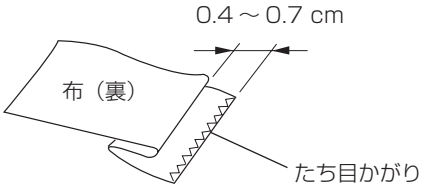
② 針が右にきたとき布の折り山のきわ（布の外側）におちるようにしてぬいます。

※ 糸調子は試しぬいをしてシェルステッチの山がきれいになるように調節します。

普通地まつり

セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	1 ～ 4 

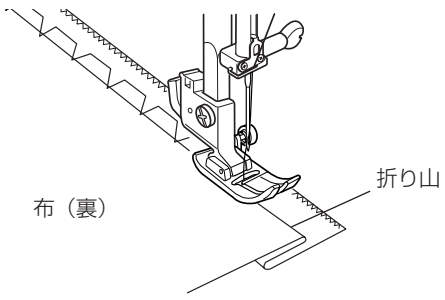
【布の折り方】



布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を 0.4 ～ 0.7 cm ほどはみ出させます。

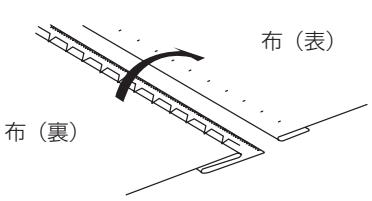
【ぬい】

①



① 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。スピードコントロールつまみは最低速（いちばん左側の位置）にします。

②



② 針が折り山からはずれないようにぬいます。ぬい終わったら布を表に返します。

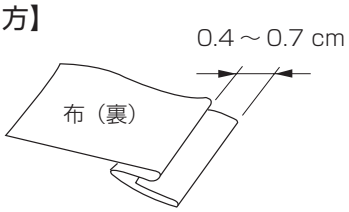
※ 左側におちる針が必要以上に折り山にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりません。



伸縮地まつり

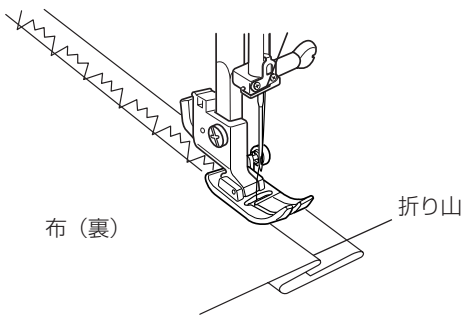
セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	1～4 

【布の折り方】



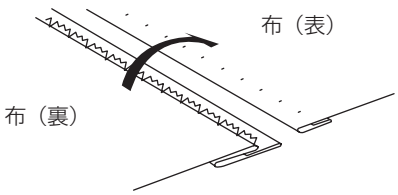
【ぬい】

①



① 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。
スピードコントロールつまみは最低速（いちばん左側の位置）にします。

②

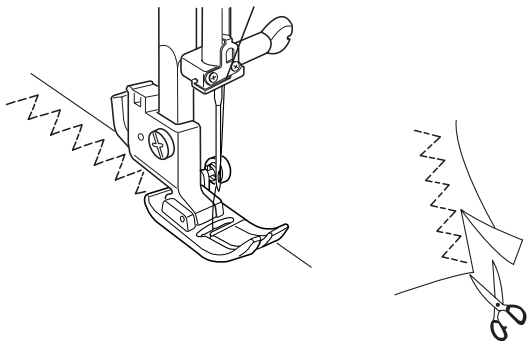


② 針が折り山からはずれないようにぬいます。
ぬい終わったら布を表に返します。

※ 左側におちる針が必要以上に折り山にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりません。

伸縮地かがり

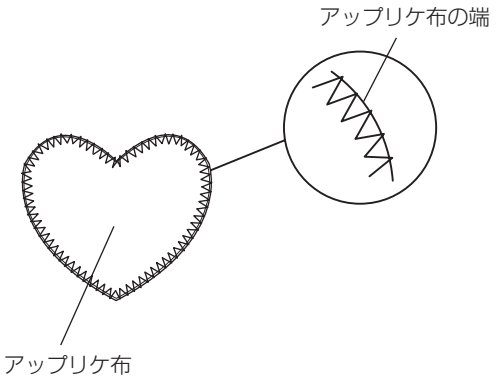
セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	3～6 



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに使用します。
ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。
糸を切らないように注意してください。

ジグザグぬい

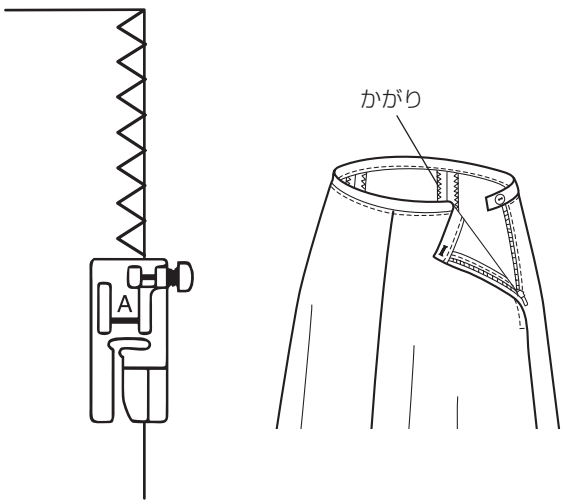
セットの目安		
模様	押さえ	糸調子
	 A: 基本押さえ	2～5 



【ひろいジグザグ 】

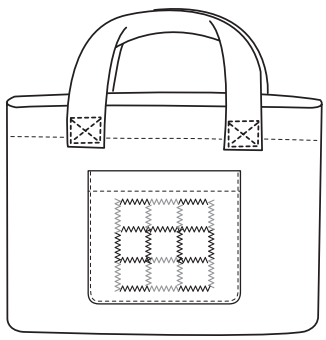
（使用例：アップリケ）
アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
アップリケ布のふちをぬいます。

※ 針をアップリケ布の端より少し外側へ落としてぬいます。
※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、針をアップリケ布の外側にさしたまま押さえ上げをあげて方向をかえると、きれいに仕上がります。



【あらいジグザグ 】

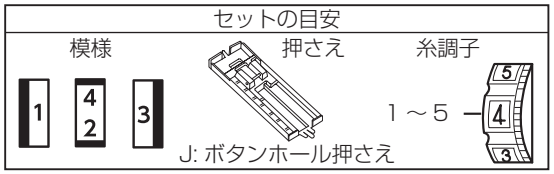
（使用例：たち目かがり）
針を布端より少し外側に落としながらぬってください。



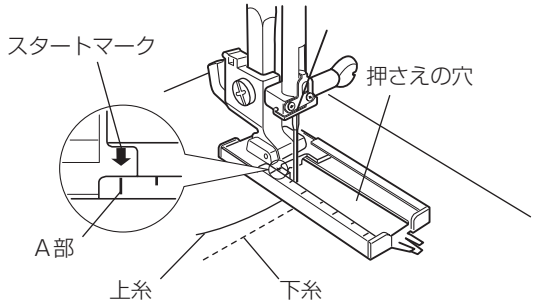
【細かいジグザグ 】

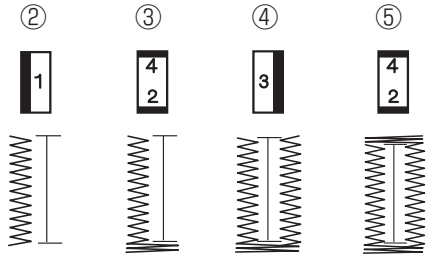
（使用例：飾りぬい）
布の裏に芯地を使用すると、きれいに仕上がります。

ボタンホール

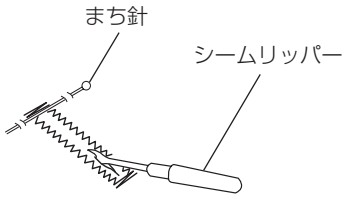


①





⑥ ⑦



※ ぬうものと同じ布で試しぬいをして、セットを確かめましょう。

※ 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

① 模様 [1] を選びます。
上糸を押さえの穴から通して下糸と一緒に横にそろえておきます。
押さえを手前に引きスタートマークをA部の目盛に合わせます。

② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげてミシンをスタートし、必要な長さまでぬってミシンを止めます。

③ 手ではずみ車を手前にまわし、針をあげて模様 [4/2] を選びます。
かんぬきを5針くらいぬって、ミシンを止めます。

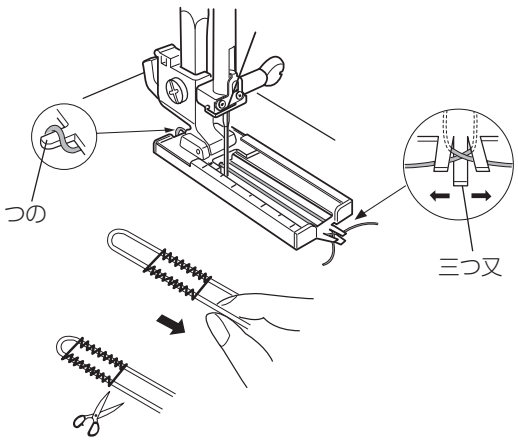
④ 手ではずみ車を手前にまわし、針をあげて模様 [3] を選びます。
左側と同じくらいぬって、ミシンを止めます。

⑤ 手ではずみ車を手前にまわし、針をあげて模様 [4/2] を選びます。
かんぬきを5針くらいぬって、ミシンを止めます。

⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10 cmくらい残して切ります。
下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

⑦ 片方のかんぬきの内側にまち針をさし、シームリッパーでかがった糸を切らないように中央部分を切りひらきます。

芯入りボタンホール



① 芯糸の輪を押さえのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール手順と同じようにぬいます。

③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、ボタンホールをごらんください。

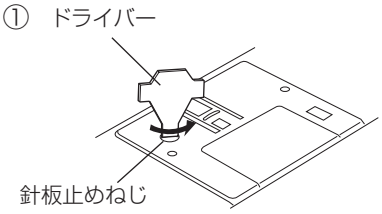
ミシンのお手入れ

⚠注意

・お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
・説明されている箇所以外は、分解しないでください。感電、火災、けがの原因となります。

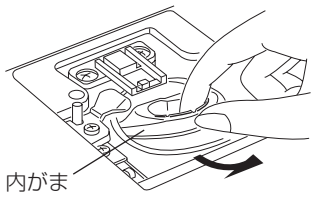
★かまと送り歯の掃除

①



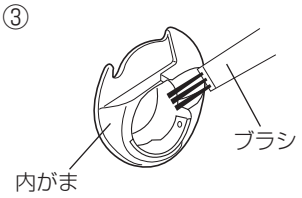
① 針と押さえホルダーを外します。針板止めねじをドライバーでゆるめ、針板を外します。

②



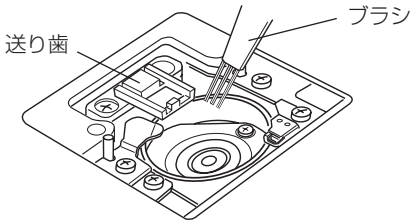
② ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。

③



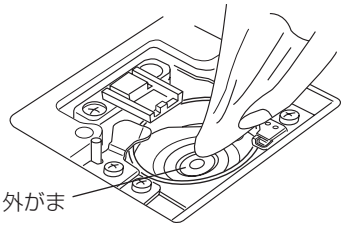
③ 内がまをブラシなどで掃除し、布切れで軽くふきます。
※ ブラシは標準付属品には含まれていません。

④



④ 送り歯のごみをブラシなどで手前に落とし、布切れで外がまを掃除します。

⑤



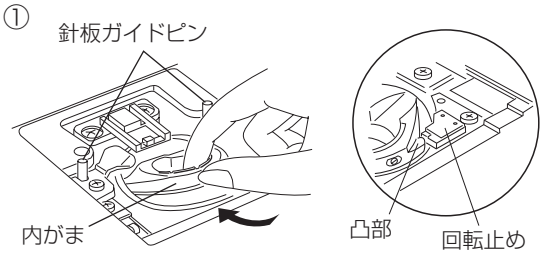
⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
※ ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸いとってください。

お願い：

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

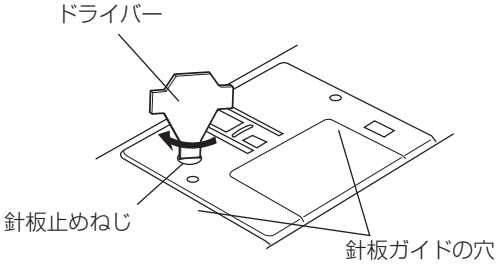
★内がまと針板の組み付け

①



① 内がまを外がまに入れます。
※ 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。

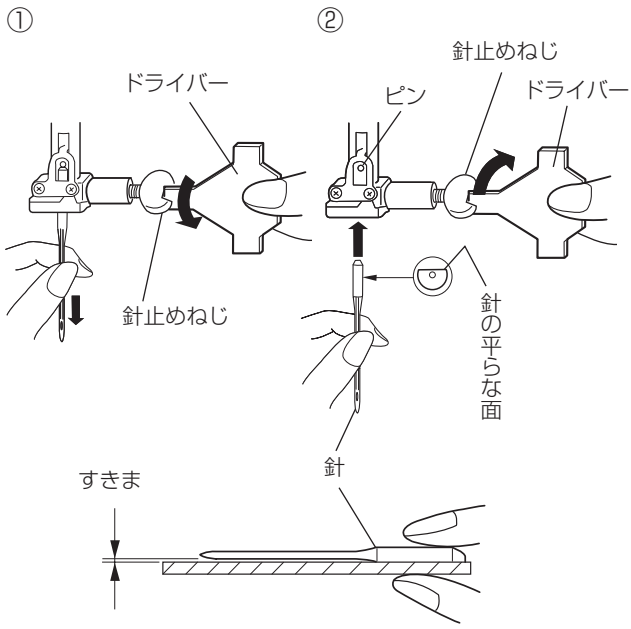
②



② ボビンを入れ、2 箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、針板止めねじをしめます。

針の取りかえ方

⚠注意
針の取りかえは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。



※ はずみ車を手で手前にまわして針をいちばん上にあげます。

（針の外し方）
① 針止めねじを手前に 1 ～ 2 回まわしてゆるめ、針を外します。

（針の付け方）
② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをドライバーでしっかりしめます。

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないでください。

布に適した糸や針を選ぶ目安

※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HAx1）を使用してください。

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～ 11 番 またはジャノメ ブルー針（別売）
普通の布	シーチング ジャージー ウール地	綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番 またはジャノメ ブルー針（別売）
		綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ジャージー コート地	綿糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に針と糸を選び、ぬいたい布のはぎれを使って試しぬいをしてください。
※ 原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。
※ 伸縮性のある布地（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針（別売）を使用すると目とび防止効果があります。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所にからみついている。	8 ページ参照
	2. 上糸調子が強すぎる。	10 ページ参照
	3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	19 ページ参照
	4. 針の付け方がまちがっている。	19 ページ参照
	5. ぬい始めに、上糸と下糸を押さえの下にそろえて引いていない。	11 ページ参照
	6. 針にくらべて糸が太すぎる。	19 ページ参照
下糸が切れる	1. 下糸の通し方が、まちがっている。	7 ページ参照
	2. 内がまの中に、ごみがたまっている。	18 ページ参照
	3. ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する
針が折れる	1. 針の付け方がまちがっているか､針が曲がっている。	19 ページ参照
	2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。	19 ページ参照
	3. 針を布にさしたままで、模様選択ダイヤルをまわした。	10 ページ参照
	4. 布に対して、針が細すぎる。	19 ページ参照
ぬい目がとぶ	1. 針の付け方がまちがっているか､針が曲がっている。	19 ページ参照
	2. 布に対して、針と糸が合っていない。	19 ページ参照
	3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（別売）を使っていない。	19 ページ参照
	4. 上糸のかけ方がまちがっている。	8 ページ参照
ぬい目がしわになる	1. 上糸調子が合っていない。	10 ページ参照
	2. 上糸と下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	7、8 ページ参照
	3. 布に対して、針と糸が合っていない。	19 ページ参照
ミシンがまわらない	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。	3 ページ参照
	2. かまや天びんに、糸やごみが巻き込まれている。（このとき、ミシンの安全装置が働いて、モータを自動停止する。）	18 ページ参照

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。

ジャノメ HP
FAQ ページ

ジャノメ公式
Instagram

ジャノメ公式
YouTube チャンネル

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より 1 年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
  ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

株式会社ジャノメ
〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
お客様相談室　TEL. 0120-026-557（フリーダイヤル）
042-661-2600
受付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
メールでのお問い合わせは、ホームページ https://www.janome.co.jp
問合せフォームをご利用ください。

仕　　様	
使 用 電 圧	100 V　50/60 Hz
消 費 電 力	45 W
外 形 寸 法	幅 35.4 cm ×奥行 15.4 cm ×高さ 26.3 cm
質　　重	5.5 kg（本体）
使　用　針	家庭用　HA × 1
最高ぬい速度	毎分 650 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

664-800-048 ①